

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05786	研究期間	平成27年度～平成30年度
研究課題名	これまで見逃されていた好塩基球の存在意義と病態形成における役割	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	烏山 一 (東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授)

【平成29年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
○	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、これまで過小評価されてきた好塩基球の機能や病態形成における役割の解明を目的に行われ、幾つかの重要な進展があり研究は順調である。例えば、好塩基球特異的なエフェクター分子、mMCP-8、mMCP-11 及びヒトトリプターゼの活性や炎症惹起作用を明らかにするとともに、好塩基球がトロゴサイトーシスにより樹状細胞から獲得した MHCII・ペプチド複合体を T 細胞に提示し、Th2 細胞を誘導できることを証明するなどの成果を上げている。一部の研究は計画を上回る速度で進展しており、成果は着実に国際的な学術雑誌等に発表されている。